

I 第31週の発生動向 (2008/7/28~2008/8/3)

1. 咽頭結膜熱については、東地方+青森市保健所管内において2007年第45週から、むつ保健所管内では、2007年第48週から**警報**が続いています。(注:警報開始基準は2人/定点、終息基準値は0.1人/定点です)。
2. ヘルパンギーナについては、弘前保健所管内においては**新たに**、むつ保健所管内では、第30週から**警報**が続いています。

II 第31週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 <small>(前週からの増減)</small>	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数					
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点
(85) インフルエンザ															0										
(74) RSウイルス感染症							2	0.40					2	0.05	1										
(75) 咽頭結膜熱	2	0.22	3	0.33					7	1.17	13	3.25	25	0.60	-4	1	1.00	1	0.13						
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.67	9	1.00	3	0.33	2	0.40			3	0.75	23	0.55	1				6	0.75					
(77) 感染性胃腸炎	16	1.78	4	0.44	7	0.78	7	1.40	4	0.67	11	2.75	49	1.17	-4	4	4.00	12	1.50						
(78) 水痘	9	1.00	12	1.33	12	1.33	7	1.40	15	2.50	13	3.25	68	1.62	30				9	1.13					
(79) 手足口病	6	0.67	34	3.78	3	0.33					1	0.17			28				6	0.75					
(80) 伝染性紅斑					1	0.11							1	0.02	-6										
(81) 突発性発しん	7	0.78	3	0.33	6	0.67	1	0.20	6	1.00	7	1.75	30	0.71	12				7	0.88					
(82) 百日咳					2	0.22					1	0.17			3	0.07	3								
(72) 風しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0									
(83) ヘルパンギーナ	32	3.56	113	12.56	7	0.78	6	1.20	9	1.50	59	14.75	226	5.38	84	2	2.00	30	3.75						
(73) 麻しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0									
(84) 流行性耳下腺炎	5	0.56			2	0.22							7	0.17	4				5	0.63					
(86) 急性出血性結膜炎															0										
(87) 流行性角結膜炎	2	1.00			1	0.50	2	2.00					5	0.45	-6				2	1.00					
(95) マイコプラズマ肺炎			2	2.00	6	6.00					2	2.00	10	1.67	4										

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」:患者発生数0

III 表II以外の感染症法対象疾患 (注:届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 弘前3人、八戸1人、五所川原2人、上十三3人、むつ1人、青森市2人 (20年計:303人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 青森市3人 (20年計: 8人)
- (69) 破傷風(五類全数把握疾患): 青森市1人 (20年計: 2人)
- (73) 麻しん(五類全数把握疾患): 弘前1人 (20年計: 62人)

感染症の窓 破傷風

表 全国及び青森県における届出数推移

	青森県	全国
2000	3	91
2001	—	80
2002	3	106
2003	—	73
2004	2	101
2005	2	115
2006	—	117
2007	—	51
2008/8/4 現在	2	44

本疾患は、破傷風菌(芽胞)(*Clostridium tetani*)が傷口から侵入して増殖し、体内で神経毒を産生して起こる感染症です。本菌は、芽胞の形で土壌中に広く存在しています。初期症状は、3日から21日の潜伏期間の後、口を開くことが困難になることから起こる**摂食困難、首筋の硬直**、寝汗、歯ぎしりなどであり、その後、顔面筋の緊張、硬直、更に、背部や全身に**強直性痙攣**が見られるようになります。本県では、5月と7月に本疾患による患者届出があり(左表)、いずれも土いじりや農作業等による土壌からの感染が推定される事例です。

予防法:日常生活において、小さな傷であっても、創傷部位に直接、土が触れないようにするなどの工夫が必要です。破傷風トキソイドワクチンの接種については、保健所、医療機関に相談することをお勧めします。